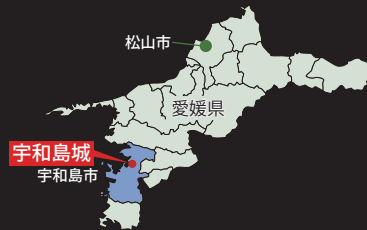


宇和島城歴史年表

時代	年号	西暦	主な出来事
安土・桃山	天正 3	1575	西園寺宣久（さいおんじのぶひさ）、板島丸串（いたじままるくし）城（※宇和島城の旧称）の城主となる
	天正 15	1587	戸田勝隆（とだかつたか）、宇和・喜多両郡に封ぜられる
	文禄 4	1595	藤堂高虎（とうどうたかとら）、宇和郡 7 万石に封ぜられ、板島丸串城を本城とする
	慶長 元	1596	高虎、板島城（板島丸串城）の築城（修築）を始める ※中世の頃は、板島という地名が使用されていた
	慶長 5	1600	高虎、今治城を居城として移り、板島城に城代を置く
	慶長 6	1601	板島城の築城工事完成
江戸	慶長 13	1608	高虎、伊勢の津に転封 富田信高（とみたのぶたか）、宇和郡 10 万石に封ぜられ、板島城を本城とする
	慶長 18	1613	信高改易され、宇和郡 10 万石は高虎預かりとなる
	慶長 19	1615	12 月 28 日、伊達秀宗（ひでむね）、宇和郡 10 万石に封ぜられ、翌年 3 月入部 ※この頃より板島に代わり宇和島という地名が使用され始める
	明暦 3	1657	秀宗の五男、宗純（むねずみ）が分知願いを出し、吉田 3 万石を分知。宇和島領は 7 万石となる 秀宗隠居し、三男宗利（むねとし）が 2 代藩主となる
	明暦 4	1658	6 月 8 日、秀宗死去
	寛文 4	1664	城普請（寛文の大改修）着手、寛文 11 年落成する
	寛文 6	1666	天守、追手門完成
	元禄 6	1693	宗利隠居し、宗賛（むねよし）が 3 代藩主となる
	元禄 9	1696	徳川幕府から宇和島領 7 万石を 10 万石に直すことを許可される
	宝永 8	1711	宗賛死去し、村年（むらとし）が 4 代藩主となる
	享保 20	1735	村年死去し、村候（むらとき）が 5 代藩主となる
	寛政 6	1794	村候死去し、村寿（むらなが）が 6 代藩主となる
	文政 7	1824	村寿隠居し、宗紀（むねただ）が 7 代藩主となる
	天保 15	1844	宗紀隠居し、宗城（むねなり）が 8 代藩主となる
	安政 5	1858	宗城隠居し、宗徳（むねえ）が 9 代藩主となる
	文久 3	1863	7 代宗紀、浜御殿の一角に隠居所として南御殿を築造し、居を移す
明治	慶応 2	1866	天赦園完成
	明治 2	1869	5 月版籍を奉還し、宗徳、宇和島藩知事となる
昭和	明治 4	1871	大阪鎮台の所管となる
	明治 22	1889	伊達家に払い下げられる
	昭和 9	1934	天守と追手門、国宝（現行の重要文化財相当）に指定される
平成	昭和 12	1937	宇和島城が国の史跡に指定される
	昭和 20	1945	戦災により追手門が焼失する
	昭和 24	1949	天守と城山の大部分が宇和島市に寄付される
	昭和 25	1950	文化財保護法施行により、天守が重要文化財となる
	昭和 35	1960	天守を解体修理（昭和 37 年修理完了）
令和	平成 28	2016	御作事所跡等が国の史跡に追加指定される

■ 交通手引 | (アクセス)



【JR でお越しの方】

- ・松山駅－宇和島駅
約 1 時間 20 分（※特急利用）
 - ・駅から登城口まで約 1km
- 【車でお越しの方】
- ・松山 IC－宇和島朝日 IC
約 1 時間 30 分
 - ・IC から城山下駐車場まで約 1km

●登城口（城山下駐車場）から天守までは、登り坂約 800 m の徒歩移動となります。天守に至る石段や登城道は、スロープ設置などバリアフリー対応にはなっておりません。国重要文化財となる天守内部も同様です。

■ ご案内（観覧料・開城時間など）

名称	開城・開館時間	料金	定休日
天 守	3 月～10 月 9:00 ～ 17:00 11 月～2 月 9:00 ～ 16:00	通常料金 65歳以上 団体（20名以上）	無休
	【Tel】 天 守 0895-22-2832 城 山 郷土館 0895-22-3904	無料 高校生以下 障がい者手帳 （介助者1名を含む）	
城山郷土館			
宇和島城 （城山公園）	3 月～10 月 6:00 ～ 18:30 11 月～2 月 6:00 ～ 17:00	無 料	
城山下 駐車場	普通車のみ	100 円 / 時間	

●宇和島市教育委員会
文化・スポーツ課
【Tel】 0895-24-1111（代表）
〒798-8601
愛媛県宇和島市曙町1番地



宇和島城公式 HP

●宇和島市観光物産協会
【Tel】 0895-49-5700
〒798-0060
愛媛県宇和島市丸之内5丁目1番4号

2025 年 8 月 第 7 版 第 1 刷



宇和島城

現存十二天守【国重要文化財・国史跡】



宇和島
uwajima

南海の伊達

宇和島伊達家九代の居城

現存 12 天守の 1 つがそびえ立つ宇和島城は、慶長 20(1615) 年に伊達政宗の長男、秀宗が入城後、明治を迎えるまで " 西国の伊達 " 9 代の居城でした。

国が定める「重要文化財（建造物）」に指定されている天守は、宇和島伊達家 2 代藩主の宗利が寛文 6（1666）年頃に建築したものです（寛文天守）。

かつて同所には、築城の名手として有名な藤堂高虎が慶長 6(1601) 年に建築した天守があり、幕府には修理の名目で届出をしましたが、天守台の石垣を含めて宗利により全面的に建て直されたため、その姿（慶長天守）は絵図でしか窺い知ることができません。

慶長天守

藤堂高虎築



復元：三浦 正幸 / 着色：佐藤 大規

天守 DATA

構造	層塔型 3 重 3 階	
高さ	全高	20.94m
	鯨	1.47m
	礎石～大棟	15.72m
	天守台	3.75m
幅	1 階	11.82m
	2 階	9.46m
	3 階	7.31m
	玄閣	3.96m
面積	1 階軒	212.75 m ²
	玄閣軒	21.65 m ²

出典：『重要文化財宇和島城天守修理工事報告書』1942 年



伊達宗利築
寛文天守

宇和島伊達家 2 代宗利が寛文 6（1666）年頃に改修、3 重 3 階総塗籠式、層塔型の天守です。

改修とありますが、実際には高虎が岩盤上に建築した望楼型天守を撤去して、石垣の天守台を持つ当時の最新式となる層塔型天守となり、新造したといっても過言ではありません。

各階の装飾性の高い破風や懸魚などから太平の世を象徴するものとして評されるとともに、小さいながらも御殿建築の意匠が随所に見られ、非常に格式を重んじた造りとなっています。

万延元（1860）年、昭和 35（1960）年に大修理を受けていますが、昔の姿を今もなお伝えています。

宇和島城天守を詳しく知りたい方はこちらをチェック！



宇和島城天守について



伝伊達秀宗 所用甲冑

地形を巧みに活かした縄張

宗利は天守のほか、^{やぐら}櫓や門なども改修しましたが、堀や石垣などの縄張は高虎のものをほぼ引き継いで、^{なまはり}水城の性格を併せ持った平山城となっています。

2辺が海に面し、3辺が海水を引き入れた堀となっている五角形の縄張は、^{ぼくふおんみつ}幕府隠密が四角形と見誤って報告したという史実から、後に高虎の巧みな縄張として語られることとなる“^{あきかく}空角の経始”の

話が生まれました。

しかし、宇和島湾内は江戸時代を通じて、徐々に新田開発などによって埋め立てが進み、幕末頃には周囲はほぼ埋め立てられました。明治以降、残る堀もすべて埋められ、その名残は今の町割りや道路に見ることができます。

また、石垣については、高虎から伊達家のものまで新旧さまざまな積み方を見ることができます。



宇和島城下屋敷割絵図（伊予史談会蔵）

宇和島城の建築物

見出しの家紋は軒瓦・鬼瓦などの紋様に対応

上り立ち門（市指定文化財）

城山南側の登城口に位置し、武家の正門とされる薬医門形式となっています。

現存する薬医門としては最大級であるだけでなく、科学的な年代分析や梁の形などの構造上の諸特徴から、創建年代が高虎の慶長期まで遡り、城に残る薬医門では最古となる可能性が指摘されている貴重な建造物です。



藩老桑折氏武家長屋門（市指定文化財・移築）

城山東北側の登城口に位置する長屋門です。筆頭家老の桑折家屋敷地に残されていたものを、国道拡幅に伴って昭和27年桑折家より市が譲渡を受け、現位置に移築しました。

元は間口長さが35mもありましたが、現地に合わせて向かって左側の長屋の大部分は取り除かれました。



城山郷土館（旧山里倉庫・移築）

弘化2(1845)年、三之丸に調練場を整備した際に武器庫として建てられた土蔵で、現存例の少ない稀少な建物です。

昭和41年、伊達家より譲渡され、城山藤兵衛丸に移築、城山郷土館の名称で内部を公開しています。

伊達宗城、穂積陳重をはじめとする宇和島ゆかりの偉人のほか、宇和島を舞台とした文学作品を紹介する展示を行っています。



城山まっぷ

正徳元（1711）年の絵図や調査成果をもとに作成したものです

- 現存する建物
- 消失した建物
- 移築された建物
- 今の公共施設など
- 登城道
- 道・郭・藩の施設など
- 侍屋敷など
- 石垣
- 土塁
- 山の斜面（樹木）
- 堀・海
- 周辺の主な建物
- 説明板・解説板
- トイレ
- 駐車場

- ### 見学順路
- 上り立ち門
 - 式部丸
 - 長門丸
 - 城山郷土館
 - 二之丸
 - 本丸
 - 天守
 - 二之丸
 - 井戸丸
 - 藩老桑折氏武家長屋門
 - 北側登城口

- 本丸
- 二之丸
- 三之丸
- 藤兵衛丸
- 長門丸
- 代右衛門丸
- 井戸丸
- 帯曲輪
- 式部丸



宇和島城の郭と石垣

写真右上の番号は「城山まっぷ」と対応

本丸

城内では天守をはじめ、もっとも多く建築物が備え付けられた郭となります。

石垣も幕末頃に「切込^{きりこみ}いぎ」で修理された部分と元々の「野面積み」の部分と同じ面で一度に見ることができま



二之丸

天守の建つ本丸の最終防衛施設としてその直前に置かれた郭で帯曲輪と連結して本丸を取り囲むように配置されています。

本丸までには櫓形門^{くしがたもん}（一の門）、二の門、三の門を通らなくてはたどりつけませんでした。



三之丸跡

内堀をめぐるし、周囲を石垣と土塀で囲んだ堅固な郭です。慶長6(1601)年から延宝4(1676)年まで御殿が置かれた藩の中枢でした。

御殿機能の移転後は側室の休息所等に使われましたが、文久3

(1863)年には取り壊され、調練場として使われました。

近代以降、堀は埋められて市街化し、目に見える遺構は山裾の石垣のみになりました。



三之丸御殿再現 CG(VR 宇和島城より)

藤兵衛丸

高虎の創建時期となる慶長6年頃の古い石垣の特徴をとどめた「野面積み」の石垣です。

城内では2番目、築造当時は日本有数の高さでした。高虎の石垣の特徴である反りを持たない直線的な勾配で築かれていることが良くわかる石垣です。



長門丸

長門丸の名称の由来は、高虎配下の重臣の名前だと言われ、伊達家の居城となった後もそのまま使用されました。

石垣には算木積み^{さんぎ}が用いられています。寛文年間(1661～1673)の大改修のものと考えています。



代右衛門丸

名前の由来は藤堂高虎の家臣矢倉大右衛門^{やぐらだいゑもん}(※)と考えられています。

石垣は、城内最古のものから最新のものまで、バリエーションに富んでいます。幕末に修理された石垣の高さは15mあり、城内で最も高い石垣となります。

(※)伊達家の資料では「代」の文字が使われています。



井戸丸

深さ約11mの井戸を備えた郭です。城内の水場を守るため堅牢な造りとなっています。

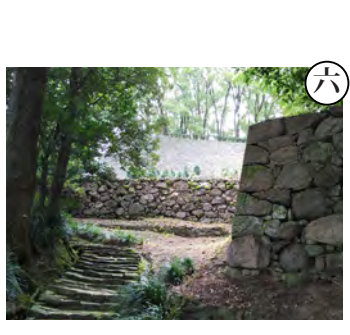
幕末に作り直した記録が残されていますが、その記録が井戸縁の石に彫られており、城内唯一の金石文^{いしもん}です。



式部丸

井戸丸と並ぶ井戸を備えた郭ですが、江戸時代前半の絵図には郭名の記載が無く、江戸時代後半になって伊達家の家臣「山崎式部」の名前から式部丸と呼ばれるようになったと考えられています。

横矢掛かりのための石垣の折れが顕著です。



くるわ・やぐらの表記について

一般的な用語としては「郭・櫓」ですが、伊達家の資料では「曲輪・矢倉」が使用されており、城内施設の固有名称として使い分けしています。